

## 第4グループ IM 合同例会及びインターシティーミーティングの開催報告

「子供達にポリオのない世界を」 — 私達はパキスタンに何を出来るのか? —

第4グループ・ガバナー補佐 池亀 武士

佐野英之ガバナー・大谷新一郎ガバナーエレクト・脇洋一郎ガバナーノミニー・第5グループ佐藤忠ガバナー補佐・第6グループ石井卓ガバナー補佐のロータリー関係者のご参加を頂き、2月26日(日) ザ・ウイングス海老名において第4グループ6クラブ合同例会とインターシティーミーティングを開催致しました。

合同例会には、ファルーク・アーミル駐日パキスタン大使をご来賓にお迎えいたしました。また、IMには昨年11月までイスラマバードに2年間赴任されていた国立国際医療研究センター櫻田紳策医師を講師にお迎えいたしました。

合同例会とIMその後の懇親会をつつがなく終えることが出来ました。これも参加して頂いた第4グループ6クラブのロータリアンとホストクラブ茅ヶ崎ロータリークラブのご尽力の賜と感謝申し上げます。

私は、佐野ガバナーが2780地区として、新会員の増強とポリオ撲滅に重点を置いている事に賛同いたしました。そして、今年度のIMのテーマを、ポリオ撲滅に焦点を当て、アーミル大使と櫻田医師をお迎えし、「あと少し」ポリオ撲滅に私たちロータリアンが、何をしたらいいのか、あの紛争地域に何が出来るのか、パキスタンに詳しく、実際に活動されている方から助言を頂きたいと思いました。

田中賢三パストガバナーは、「百の名言より一つの実践、されど言葉にはパワーが宿る」と仰っております。「あと少し」は、実践あるのみではないのか、このIMを通してクラブで何が出来るかを考える機会としていただきたいという思いです。

アーミル大使のご挨拶の中で、世界のロータリアンのポリオ撲滅への多大なる支援に謝意を頂きました、しかし、まだまだパキスタンには難しい問題が数多くあり、撲滅にはさらなるの努力が必要で、そして最前線で尽力している人々になお一層のご支援を皆さんに御願ひしたいとも述べられました。

国際医療研究センターの櫻田医師は、基調講演の中で、すべての5歳以下の子供に、ワクチンを接種することが重要だが、実際にはパキスタンでは戸籍の整備が十分でなかったり、難民の流入問題、宗教上の理由でワクチン接種に否定的な部族の存在もあり、困難な問題が山積していると述べられました。そして、紛争が落ち着いている今こそが撲滅のチャンスであるとも述べられていました。最後に櫻田先生からは、国際ロータリーが、30年に渡りポリオ根絶に取り組み、成果を出してきた事に感謝をされた一方で、残されている「あと少し」の道のりは平坦ではないので、ここは踏ん張りどこだと助言を頂き



ました。

アーミル大使のご挨拶、櫻田医師の講演を聴き、この IM をこれからの各クラブでのポリオ撲滅への新たな一歩にしていきたい。

講演ののち、懇親会では、テーブルディスカッションをして6クラブロータリアンの皆様との楽しい IM の幕を閉じました。



正面にはパキスタン国旗も



JCOMの取材を受ける大使  
通訳は、GSEの参加者の方がお手伝いに

茅ヶ崎RC池上会員がソングリーダーになり、参加者全員で輪になり高らかに歌いました。

